

# 「新之助」生育速報 No.7

令和2年7月31日  
村上農業普及指導センター

## 1 生育調査ほ・実証ほにおける生育状況（7月30日現在）

### 生育概況

**草丈:並 茎数:やや少~並 葉数の進み:やや遅 葉色:並~やや濃**

- 草丈、茎数、葉色ともほぼ指標値並であるが、ほ場間差が大きい。
- 幼穂形成期は前年並であったが、その後の低温により幼穂伸長は緩慢で、現在の予想出穂期は8月16日頃（前年差+4日）となっている。
- 7月の長雨により、各地で葉いもちの発生が確認され、一部で軽いずり込み症状もみられる。

新之助生育調査ほ・実証ほの調査結果（7月30日現在）

調査場所	田植日	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉数 (葉)	葉色 (SPAD)
関川村下関(関川)	5月15日	70	450	12.7	37.7
村上市牛屋(神林)	5月15日	71	447	14.2	34.5
村上市岩沢(朝日)	5月19日	78	501	13.5	30.6
平均	5月16日	73	466	13.5	34.3
指標値	5月15日	72	485	14.0	33.5
【参考:前年平均】	5月19日	69	504	13.1	32.6

## 2 今後の技術対策

### 当面の管理のポイント

#### ◎後期栄養管理

- ・ 今後は高温に推移すると予想されているので、葉色が濃いほ場でも 2回目の穂肥は確実に施用する。
- ・ 2回目の穂肥時期は、出穂12~10日前（1回目の8日後頃）で、穂肥量は、1kg/10aを基本とする。  
栄養不足が懸念される場合は、1.5kg/10a（1回目との合計3kg/10a以内）を上限に施用する。
- ・ 出穂10日前以降の穂肥は、食味を低下させるので原則施用しない。  
ただし、2回の穂肥を施用しても、葉色の維持が困難な場合は、追加の穂肥を施用する。

## ◎水管理

- ・ 飽水管理を継続する。特に稲体は、出穂の 10 日前頃から出穂・開花期にかけて最も水を必要とするので、水が不足しないようにする。
- ・ 異常高温、強風、フェーン時には速やかに湛水し、稲体の急激な蒸散防止に努める。なお、緊急時は末端のほ場まで水が届かない場合があるので、入水が終わったら給水口を確実に止め、節水に努める。

## ◎いもち病対策

- ・ 各地で葉いもちの発生が認められており、発生量は近年比多いため、下記により薬剤防除を徹底する。

### ①葉いもち発生ほ場での追加防除

#### 多発生しやすい地域

葉いもちを確認した場合は、直ちに粉・液剤で防除する。

#### 強風地帯など少発生地域

葉いもちが容易に確認される場合は直ちに粉・液剤で防除する。

わずかに葉いもちが確認される場合は、発生推移をよく観察し、発病の進展がみられるようなら直ちに粉・液剤で防除する。

### ②穂いもち防除（必須）

穂いもち防除は、葉いもちが発生していない場合でも必ず実施する。

粒剤で出穂前の適期に水面施用（葉いもち発生ほ場では別途粉・液剤による防除が前提）するか、粉・液剤で出穂期直前と穂揃い期の 2 回の防除を実施する。

上位 3 葉に病斑が認められる場合は、穂揃い期 10 日後の 3 回目の防除も実施する。

共同防除は、新之助の防除適期とならない場合が多いので、新之助の適期に合わせた防除を追加する。

## ◎カメムシ防除(斑点米防止対策)

- ・ 県病害虫防除所から斑点米カメムシ類に関する注意報が発表されている。
- ・ 農道・畦畔の定期的な草刈りと本田内の雑草除去及び薬剤防除で斑点米の発生防止対策を徹底する。